

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について（お知らせ）

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることなどに留意して分析を進め、このたび、名寄市小・中学校の児童生徒の学力や学習状況の傾向をまとめることができました。

つきましては、明らかになった課題を克服し、さらに児童生徒の学習改善や学習意欲の向上を図るために、学力や学習状況の傾向及び指導の改善策などについてお知らせいたしますので、皆様のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

1 小学校の教科に関する調査結果の概要について

※ 「全国」とは全国の平均正答率のことです。

□・漢数字・（ ）・記号は設問番号を示しており、調査問題は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

また、改善策の例については、国立教育政策研究所の解説資料から一部を抜粋して掲載しています。

国語A ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 1二（3）学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。〔設問の概要：浴びる・巢・承知〕
- 5二 新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える。〔設問の概要：コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く〕
- 6 登場人物の相互関係を捉える。〔設問の概要：登場人物の関係についての説明として適切なものを選択する〕
- 7 作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る。〔設問の概要：応募のきまりを守っていないものを選択する〕

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 3 話の内容に対する聞き方を工夫する。〔設問の概要：聞き方の説明として適切なものを選択する〕

【改善策の例】

- 相手の話を聞く際は、自分や自分たちに伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなど、相手の話の目的や意図を捉えながら内容を十分に聞き取ることができるように指導することが重要である。また、聞き取った内容について、自分の考えと比べて共通点や相違点に分類したり、関連して考えたことなどを整理したりすることによって、相手の目的や意図を捉えつつ、自分の考えをまとめることができるように指導することも大切である。

具体的には、必要に応じて、メモを取りながら整理して聞いたり、取ったメモの内容を整理して相互関係を考えたりするような指導が考えられる。

国語 B ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 1一 目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする。〔設問の概要：新聞の割り付けとして適切なものを選択する〕
- 1三 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く。〔設問の概要：【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く〕
- 3一 登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える。〔設問の概要：〈絵3〉の場面が始まるまとまりとして適切なものを選択する〕

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 3二 登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する。〔設問の概要：声に出して読むときの工夫とその理由を書く〕

【改善策の例】

- 物語を音読する際は、場面の移り変わりや登場人物の行動や気持ちの変化を捉えることが重要である。一文一文や段落ごとの読みだけではなく、物語全体の内容や構成、展開などを把握することにより、音読を工夫することができる。その際、登場人物の行動や気持ち、それらの変化などについて聞き手に伝わるような声の出し方の工夫を考えるように指導することが大切である。そのためには、例えば、話し合いによって互いの考えを比較したり、関係付けたりしながら解釈を深めていくように指導することが大切である。

算数 A ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 1 (1) 小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができる。〔設問の概要：8.9 - 0.78の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ〕
- 1 (2) 加法における計算の確かめの方法を理解している。〔設問の概要：小数の加法の結果を、減法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く〕
- 2 (1) 繰り上がりのある2位数の加法の計算をすることができる。〔設問の概要：28 + 72〕
- 2 (2) 末尾の位のそろっていない小数の減法の計算をすることができる。〔設問の概要：6.79 - 0.8〕
- 2 (3) 異分母の分数の減法の計算をすることができる。〔設問の概要：5/9 - 1/4〕
- 2 (4) 除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることができる。〔設問の概要：5/6 ÷ 7〕
- 5 (2) 円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができる。〔設問の概要：円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の角の大きさを求める〕
- 6 (1) 示された見取図の情報を基に、展開図に必要な面の大きさを読み取ることができる。〔設問の概要：作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面の長方形の縦と横の辺の長さを求める〕

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 3 日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる。〔設問の概要：午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める〕
- 4 (2) 180° や 360° を基に分度器を用いて、 180° よりも大きい角の大きさを求めることができる。〔設問の概要：分度器の目盛りを読み、 180° より大きい角の大きさを求める〕

【改善策の例】

- 条件に合った時刻や時間を確実に求めることができるようにする。
日常生活において計画的に行動するためには、条件に合った時刻や時間を求めることが大切である。その際、ある事柄の開始時刻と所要時間、終了時刻の関係を正しく捉える必要がある。
- 分度器を用いて、角の大きさを正確に測定できるようにする。
角の大きさの測定については、合同な図形や、縮図や拡大図などの関連する内容を意図的に取り扱うことで、分度器を用いた角の大きさの測定や作図の技能の定着を図ることが大切である。

算数 B ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 1 (2) 平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している。〔設問の概要：作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ〕
- 3 (1) 正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求めることができる。〔設問の概要：周の長さが24mの正三角形を巻き尺でつくるために、それぞれどこの目盛りのところを持てばよいかを書く〕
- 4 (1) 四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することができる。〔設問の概要：四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く〕

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 1 (3) 示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を記述できる。〔設問の概要：二組の道のりが、それぞれ等しくなることを書く〕
- 2 (1) 単位量当たりの大きさを用いて、目的に応じた買物の仕方を選択し、代金を求めることができる。〔設問の概要：トマトを7個買うとき、最も安くなる買い方を選び、そのときの代金を書く〕
- 2 (2) 示された情報から基準量を求める場面を捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる。〔設問の概要：20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く〕
- 5 (1) 長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる。〔設問の概要：示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く〕
- 5 (2) 条件を変更した場面に面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めることができる。〔設問の概要：示された図形の色がついた部分の面積を求める〕

【改善策の例】

- 日常の事象と図形の約束や性質を関連付けて、的確に判断したり考察したりできるようにする
図形の性質を学習する際には、図形の約束や性質が日常生活のどのような事象と関連付けられているかを考えることで理解を深めることができる。その際、図形の約束や性質を活用して問題解決を図る学習を取り入れることが重要である。
- 日常生活の事象の解決に、割合や単位量当たりの大きさを活用して、合理的かつ適切に判断する学習を充実する。
日常生活の中には、算数で学習したことを活用すると、合理的、能率的に解決できる場面が多い。児童にとって身近で、解決の必要性を感じる場面を基に問題を設定することは、算数のよさを実感する上で大切である。
- 基準量、比較量、割合の関係を把握し、比較量と割合を基に基準量を求めることができるようにする。
日常生活において、商品の広告などで、「○%増量」や、「○割引」などの表現に出会うことは数多くある。その際、どの程度得になるのかを判断するためには、基準量と比較量の大小関係を基に、二つの数量の関係を的確に捉えることが大切である。
- 示された考え方を基に、条件を変更した場面を考察し、考えを説明することができるようにする。
児童が既習の内容を積極的に活用し、根拠となる事柄を明らかにして考え進むためには、問題の条件や数値などを変更した場面から、発展的に課題を解決することが大切である。

理科 ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- ① (5) イ 電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できる。
〔設問の概要：電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ〕
- ② (3) 顕微鏡の名称を理解している。〔設問の概要：示された器具（顕微鏡）の名称を書く〕
- ② (5) 植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述できる。〔設問の概要：インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選び、選んだわけを書く〕

<全国と比べて課題が見られた設問>

- ① (4) 電磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用できる。〔設問の概要：電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組み合わせを選ぶ〕
- ② (2) 生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析できる。〔設問の概要：生物の成長に必要な養分のとり方について、仲間分けした観点を選ぶ〕
- ② (4) 顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている。〔設問の概要：顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ〕

【改善策の例】

- 実際の自然、日常生活などの場面や文脈において、学習で身に付けた知識・技能を活用できるようにするためには、自然の性質や規則性を適用したものづくりを行ったり、日常生活に見られる自然の事物・現象について学習で身に付けた科学的な言葉や概念を使用して考えたりする機会を設定することが大切である。
指導に当たっては、学習のまとめの場面で、ものづくりをする際に学習で身に付けた知識・技能の

うち、どのような性質や仕組みを利用するのかを明確にした設計図や完成予想図などを作成し、実際に操作しながらものづくりをすることが重要である。

- 自然の事物・現象を多面的に考察するためには、視点を明確にしながら観察記録を整理し、差異点や共通点に着目して分析することが大切である。

指導に当たっては、観察記録を一覧できるように並べたり、表に整理したりして、差異点や共通点に着目しながら気付いたことを話し合い、考察できるようにすることが重要である。

- 観察器具を扱う際には、単なる作業として扱うのではなく、自然の事物・現象を観察する中で対象や目的に応じて意図的に操作できる技能として習得することが大切である。

指導に当たっては、まず、顕微鏡の台数を可能な限り整備するとともに、試行錯誤しながら観察、実験を進められるように十分な時間を確保することが重要である。次に、実際の観察器具を用いて具体的な操作方法を示すとともに、教科書等を活用して、適切な操作について理解できるようにすることが大切である。

2 中学校の教科に関する調査結果の概要について

※ 「全国」とは全国の平均正答率のことです。

□・漢数字・()・記号は設問番号を示しており、調査問題は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

また、改善策の例については、国立教育政策研究所の解説資料から一部を抜粋して掲載しています。

国語A ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 3一 表現の技法について理解する。〔設問の概要：用いられている表現の工夫（擬態語）として適切なものを選択する〕
- 4一 伝えたい事実を明確に書く。〔設問の概要：棒グラフの示された部分の変化の内容を適切に書く〕
- 9四② 単語の類別について理解する。〔設問の概要：「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する〕
- 9六 手紙の書き方を理解して書く。〔設問の概要：手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する〕

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 1二 聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す。〔設問の概要：「成否」という言葉を分かりやすい表現に直す〕
- 9一3 文脈に即して漢字を正しく書く。〔設問の概要：漢字を書く（アマったお金を貯金する）〕
- 9二1 文脈に即して漢字を正しく読む。〔設問の概要：漢字を読む（詳細に述べる）〕
- 9七1 漫画の内容を参考にして、登場人物の思いやものの見方を想像する。〔設問の概要：漫画の言葉に対応する部分として適切なものを古典の文章の中から選択する〕

【改善策の例】

- 話をする際には、聞き手に分かりやすい言葉を用いるように意識することが重要である。時には、聞き手の反応を踏まえて、語句の選択や言葉遣いなどに適宜変更を加えながら話すように指導する場合もある。その際には、話し言葉と書き言葉の違いを、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)の「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」と関連付けて指導することが大切である。
- 語句についての理解を深めるためには、文脈の中での意味を捉えることが大切である。そのためには、話や文章の中で実際に使われている語句の意味を考え、似た意味を表す別の言葉に言い換えてみるなどの学習活動が有効である。
- 漢字の指導に当たっては、正確に読み書きできるようにすることに加え、文脈の中で適切に使えるようにすることが大切である。そのためには、既習の漢字を積極的に使用したり、知らない熟語の意味をその漢字の訓読みから推測したりする機会を意図的に授業に取り入れることが有効である。
- 古典の学習の際には、小学校での学習を踏まえた上で、生徒が身に付けている知識を生かせる場面を設定し、古典への興味・関心を深めることが大切である。例えば、古典を取り上げた漫画や絵本などを読んで、興味をもった箇所について原文を読んだり、古典を解説した文章を読んだりする学習活動が考えられる。その上で、登場人物や作者の思いなどを想像し、古典に表れたものの見方や考え方に触れる学習活動が効果的である。

国語 B ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 1一 状況に応じて、資料を活用して話す。〔設問の概要：ノートの「その他の情報」を役立てられる場合として適切なものを選択する〕
- 1三 資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く。〔設問の概要：演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く〕

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 2一 目的に応じて文章を要約する。〔設問の概要：ウェブページの文章の内容について述べた文の空欄に当てはまる言葉として適切なものを選択する〕
- 3一 表現の工夫について自分の考えをもつ。〔設問の概要：「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択する〕

【改善策の例】

- スピーチの仕方には様々な形態があるが、いずれの場合も、目的や相手、時間などの条件に応じて、情報を整理して内容を組み立てる必要がある。その際、中心となる情報に加えて、それを補う情報を資料として準備しておくことが一般的である。生徒が行うスピーチにおいても、実物を示すなど、聞き手の理解を促すための資料を準備して活用することが重要である。
- 文学的な文章を読む際には、内容だけでなく豊かな表現を味わいながら読むことが大切である。表現の工夫は、心情や情景の描写など部分的な叙述に関わるものと、文章全体の構成や展開に関わるものがある。これらを味わうためには、細部の表現に注意して読むことと、文章全体を俯瞰（ふかん）して読むことを意図的に取り入れる必要がある。

数学A ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 11 一次関数の表から、 x と y の関係を式で表すことができる。〔設問の概要：一次関数の表から、 x と y の関係を表した式を選ぶ〕
- 14 (1) 与えられた資料から中央値を求めることができる。〔設問の概要：反復横とびの記録の中央値を求める〕

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 2 (3) 等式を目的に応じて変形することができる。〔設問の概要：等式 $2x - y = 5$ を y について解く〕
- 5 (1) 空間における直線と平面の垂直について理解している。〔設問の概要：直方体において、与えられた辺に垂直な面を書く〕
- 7 (2) 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。〔設問の概要：証明で用いられている三角形の合同条件を書く〕
- 12 (1) 時間と道のりの関係を表すグラフについて、グラフの傾きが速さを表すことを理解している。〔設問の概要：時間と道のりの関係を表すグラフから、速さが最も速い区間を選ぶ〕
- 15 (2) 多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している。〔設問の概要：さいころを投げるときの確率について正しい記述を選ぶ〕

【改善策の例】

- ある文字について解くことの意味を理解し、等式を変形できるようにするために、2つ以上の文字を含む等式の変形では、式変形の目的を明確にした上で、等式の性質などの根拠に基づいて正しく変形する場面を設定することが考えられる。
- 空間における直線と平面の位置関係を理解できるようにするために、身近な立体に触れたり、見取図を見て直線や平面の位置関係を考えたりして、様々な視点から具体物を観察する場面を設定することが考えられる。
- 三角形の合同条件など、証明の根拠として用いられている図形の性質を指摘できるようにするために、証明を読み、根拠を見いだすとともに、その根拠がどのように用いられているかを確認する場面を設定することが考えられる。
- 時間と道のりの関係を表すグラフについて、グラフの傾きの違いが速さの違いを表すことを理解できるようにするために、傾きの違う複数のグラフと速さを対応させて考察する場面を設定することが考えられる。
- 確率の意味を理解できるようにするために、ある試行を多数回繰り返したとき、試行回数全体に対するある事柄の起こる回数の割合が一定の値に近づいていくことを、観察や実験などを通して捉える活動を取り入れることが考えられる。

数学B ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 1 (2) 必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することができる。〔設問の概要：投映画面がスクリーンに収まり、できるだけ大きく映し出すことができる投映距離を選ぶ〕

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 2 (1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。〔設問の概要：連続する3つの整数が19、20、21のとき、それらの和が中央の整数の3倍になるかどうかを確かめる式を書く〕
- 2 (3) 発展的に考え、予想した事柄を説明することができる。〔設問の概要：連続する5つの整数の和について成り立つ事柄を表現する〕
- 3 (2) 図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明することができる。〔設問の概要：四角形EFGHがいつでも平行四辺形になるように点Fの位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する〕
- 4 (2) 発展的に考え、条件を変えた場合について証明することができる。〔設問の概要：正方形ABCDを平行四辺形ABCDに変えても、 $AE = CF$ となることの証明を完成する〕
- 6 (2) 与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる。〔設問の概要：底面になる円の半径の長さが8cmのとき、表や式から、側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する〕

【改善策の例】

- 図や表で与えられた情報から、目的に応じて必要な情報を適切に選択し、事象に即して数学を活用できるようにするために、実生活の場面での問題を解決する活動を取り入れることが考えられる。
- 日常的な事象を数学的な解釈に基づいて考察し、事柄が成り立つ理由を説明できるようにするために、伴って変わる2つの数量が反比例の関係であることなど、関数関係を根拠として事柄が成り立つ理由を説明する活動を取り入れることが考えられる。
- 事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明できるようにするために、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、根拠を明らかにする場面を設定することが考えられる。
設問(2)を使って授業を行う際には、 $3n+3$ という表現にとどまっているものを取り上げ、この式が中央の整数の3倍であることを説明するために、 $3n+3$ を $3(n+1)$ と変形する場面を設定することが考えられる。さらに、 $n+1$ が中央の整数であることを示す必要があることを、具体的な数の例を基に理解し、「 $n+1$ が中央の整数だから、 $3(n+1)$ は中央の整数の3倍である。」という表現を加えるなどして、説明を改善する活動を取り入れることが考えられる。
- 様々な問題を解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかを明らかにできるようにすることが考えられる。その際、図形の性質や表、式、グラフ等の「用いるもの」とその「使い方」について説明する場面を設定することが考えられる。
- 問題の条件を変えて、発展的に考えることができるようにするために、証明を読み、結論が成り立つために欠かせない条件や性質を捉える場面を設定することが考えられる。
- 様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかを明らかにできるようにすることが考えられる。その際、表、式、グラフな

どの「用いるもの」とその「用い方」について説明する場面を設定することが考えられる。

理科 ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- ① (3) 二酸化炭素の体積を量る場面において、水上置換法では正確に量れない理由を説明することができる。〔設問の概要：水上置換法では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する〕
- ⑦ (1) デンプンが消化酵素によって分解されて、最終的にできる物質の名称を表すことができる。〔設問の概要：消化酵素によって、デンプンが最終的に分解された物質の名称を選ぶ〕
- ⑧ (2) 平均値を求める場面において、平均値を求める理由を説明することができる。〔設問の概要：えらぶたの開閉回数の平均値を求める理由として適切なものを選ぶ〕

<全国と比べて課題が見られた設問>

- ③ (1) 露点を測定する場面において、最も高い湿度の時刻を指摘することができる。〔設問の概要：13時から16時の四つの気象観測の記録から、最も高い湿度を選ぶ〕
- ⑤ (1) オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる。〔設問の概要：抵抗に加わる電圧と流れる電流から、抵抗の大きさを計算して求める〕
- ⑤ (2) 技術の仕組みを示す場面において、スイッチの入り切りによる磁界の変化を説明することができる。〔設問の概要：電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が振れる理由を、「磁界」という言葉を使って説明する〕

【改善策の例】

- 気象現象の観察や観測の記録から、気象要素の変化と相互の関連を推定できるようにすることは大切である。
- 理科で学習したことが、日常生活や社会において活用されていることに気付くことは、理科を学ぶことの意義や有用性を実感する上で大切である。指導に当たっては、日頃から科学技術に関する記事や情報などに関心をもつことができるような学習場面を設定することが考えられる。
- 理科で学習したことが関係する科学技術について、科学的な概念を使用して考えたり説明したりすることは大切である。

3 小学校の児童質問紙調査、中学校の生徒質問紙調査の結果の概要について

※ 「全国」とは全国の児童生徒が回答した割合のことです。
 () は質問番号を示しており、質問事項は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

◆ 小学校の児童質問紙調査の結果の概要について

＜全国と比べて望ましい傾向を示した項目＞

項目	平成 27 年度
(13) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか	「1時間以上勉強する」児童の割合は全国程度だったが、「全く勉強しない」児童は、全国に比べ割合が少なく、前年度比もよい結果となった
(23) 家で、学校の授業の復習をしているか	→「している」という割合が高い
(34) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか	→「思う」という割合が高い
(41) 5年生までに受けた授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思うか	→「思う」という割合が高い
(51) 国語の勉強は大切だと思うか	→「思う」という割合が高い
(62) 算数の勉強は好きか	→「好き」という割合が高い
(78) 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てているか	→「当てはまる」という割合が高い

＜全国と比べて努力を要する傾向を示した項目＞

項目	平成 27 年度
(6) 自分には、よいところがあると思うか。	→改善傾向にあるが、「思う」という割合が低い
(12) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をするか。	→大きく改善傾向にあるが、「2時間以上」という割合が高い
(23) 家で、学校の授業の予習をしているか	→ほぼ全国程度に改善された
(46) 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思うか	→大きく改善傾向にあるが、「思う」という割合が高い
(74) 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか	→「当てはまる」という割合が低い

◆ 中学校の生徒質問紙調査の結果の概要について

＜全国と比べて望ましい傾向を示した項目＞

項目	平成 27 年度
(6) 自分には、よいところがあると思うか	→「思う」という割合が高い。
(9) 将来の夢や目標を持っているか	→「当てはまる」という割合が高い
(26) 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあるか	→「当てはまる」という割合が高い
(34) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか	→「思う」という割合が高い

(51) 読書は好きか	→「好き」という割合が高い
(64) 数学の授業の内容はよく分かるか	→「分かる」という割合が高い

<全国と比べて努力を要する傾向を示した項目>

項 目	平成 27 年度
(11) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をするか	→改善されつつあるが、「2時間以上」という割合が高い
(12) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメールインターネットをするか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）	→「2時間以上」という割合が高い
(14) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか	→「2時間以上」という割合が低い
(21) 家で、学校の宿題をしているか	→「している」という割合が低い
(23) 家で、学校の授業の予習をしているか	→「している」という割合が低い
(24) 家で、学校の授業の復習をしているか	→「している」という割合が低い

4 学力向上の取組について

今年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本市の児童生徒においては、各教科で基礎的・基本的な知識や技能の定着が図られている状況が見られるものの、①根拠を明らかにして考える、②物事を関連付けて考える、そして、③考えたことを、条件に応じて、まとめ・表す、といった力を身に付けさせることや、家庭での学習習慣の確立を図ることなどが継続的な課題となっています。

このような成果と課題を踏まえ、名寄市教育委員会では、授業改善と望ましい生活のリズムの定着を「車の両輪」と位置付け、名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心として市内の小・中学校が一体となった総合的な学力向上の取組をさらに推進してまいります。

【主な重点】

(1) 授業改善

思考力、判断力、表現力等を育むために、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、発表や討議、ノート記述、レポート作成などの言語活動を次の視点から充実を図ります。

- ① 学習規律のより一層の確立とともに、次のような授業改善を進める。
 - 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す
 - 授業の最後に学習したことを振り返る活動を行う
 - 児童・生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような指導をする
 - 児童・生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進める

- ② 各教科のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付ける。

(2) 指導方法・指導体制の改善

学習内容を確実に身に付けさせるために、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ります。

(3) 学習規律の徹底

授業を効率的に進め、児童生徒の自ら学ぶ態度を養うため、すべての小・中学校で全学級における一貫した学習規律の確立を図ります。

(4) 学習習慣の確立

家庭学習の充実を図ります。(例：全国学力・学習状況調査の結果及び改善策について児童生徒・保護者への丁寧な説明、テレビゲームなどをする時間の縮減及び学年に応じた家庭学習の時間の確保、予習－授業－復習のサイクルの確立等)

(5) 学びに向かう集団づくり

自らを律する心を育てる生徒指導と望ましい人間関係や雰囲気醸成し、学級が児童生徒の心の居場所となる学級経営に努めます。